

平成29年12月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,452	8,834	4,494	4,340	△ 4	1
2 千 石	3,992	6,854	3,438	3,416	△ 25	△ 34
3 内 山	5,473	7,665	4,068	3,597	10	3
4 大 和	3,396	6,723	3,329	3,394	1	8
5 上 野	7,257	15,392	7,669	7,723	2	12
6 高 見	7,262	13,457	6,441	7,016	△ 11	△ 14
7 春 岡	6,822	10,928	5,794	5,134	△ 2	△ 4
8 田 代	11,454	21,961	10,611	11,350	0	24
9 東 山	10,333	19,539	9,622	9,917	8	23
10 見 付	4,438	8,333	4,187	4,146	△ 8	△ 17
11 星 ケ 丘	3,529	6,943	3,153	3,790	1	5
12 自 由 ケ 丘	3,561	7,319	3,342	3,977	7	6
13 富 士 見 台	6,464	15,515	7,171	8,344	1	2
14 宮 根	3,853	8,393	4,006	4,387	3	△ 2
15 千 代 田 橋	3,637	8,538	4,009	4,529	8	5
千 種 区 計	86,923	166,394	81,334	85,060	△ 9	18
H28.12.1	85,985	165,578	80,950	84,628	△ 19	17
対 前 年 比	938	816	384	432	10	1
名 古 屋 市	1,090,264	2,316,316	1,144,169	1,172,147	490	461
愛 知 県 (H29.11.1)	3,155,958	7,530,471	3,767,929	3,762,542	3,883	3,560

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	99	127	△ 28	762	716	46

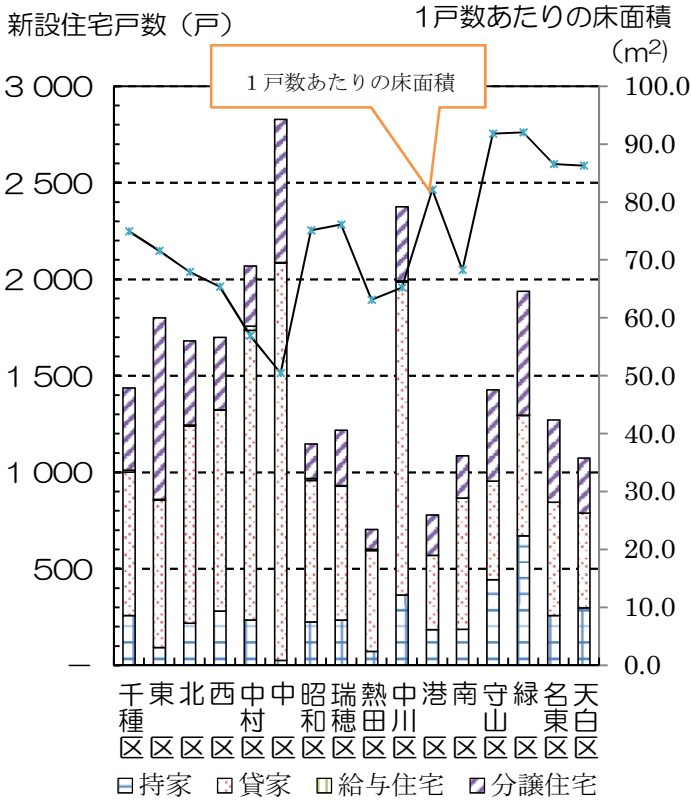
【参考】	国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
	昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
	昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
	平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
	平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の新設住宅着工戸数

今回は統計データ（国土交通省「建築動態統計調査」）に基づいて、新設住宅着工戸数および1戸あたりの床面積を見ていきます。

図1: 区別利用関係別新設住宅の着工戸数
および1戸あたりの床面積（平成28年）

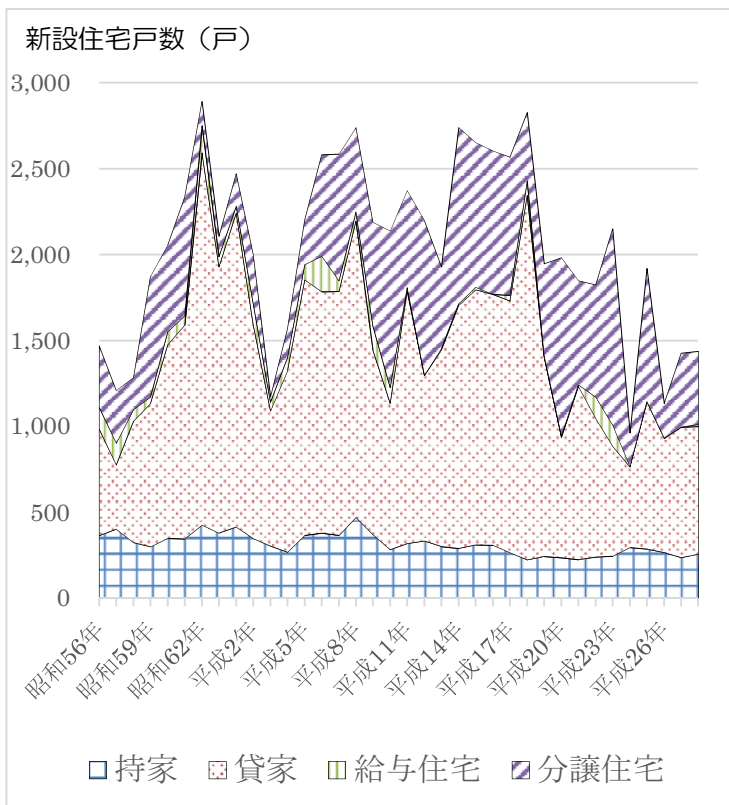


千種区の平成28年中の新設住宅着工戸数を見ると（図1）、中区（2,828戸）、中川区（2,376戸）、中村区（2,070戸）、緑区（1,938戸）と続き、千種区（1,438戸）は第8位となっております・これは名古屋市全体（24,541戸）の約5.9%を占めています。

利用関係別の戸数でみると、千種区は持家258戸、貸家743戸、給与住宅11戸、分譲住宅426戸となっています。

これらの新設住宅着工戸数の、1戸あたりの床面積を区別で見ると、緑区（92.0m²）、守山区（91.8m²）、名東区（86.6m²）、天白区（86.3m²）、と続き、千種区は75.0m²で8番目でした。これは名古屋市平均（71.4m²）よりも3.6m²広い値です。

図2: 千種区の利用関係別新設住宅着工戸数の推移



次に千種区の新設住宅着工戸数の推移を見ていきます。（図2）

昭和56年以降の利用関係別新設住宅着工戸数の推移を見ると、総数では当初増加傾向でしたが、バブル崩壊後で平成3年には前年度比で40%以上減少しました。その後持ち直したものの平成19年、平成24年にも対前年度比で30%以上減少するなどして平成28年の戸数は昭和56年とほぼ同じになっています。

内訳をみると持家は年間300戸程度で変動があまり大きくないのに対し、貸家や分譲住宅は年ごとの変動が大きいことがわかります。特に分譲住宅は平成23年1,143戸→平成24年197戸→平成25年775戸→平成26年200戸など激しく動いています。